



2021/11/13 公開

ごうちゃんねる (GO-CHANNEL) ◆ 終末預言シリーズ (前兆編) ◆
#14 「患難時代直前の世界構造 – 世界統一政府から分かれ出る十の王国 –」

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。このシリーズでは、聖書の終末預言に特化して解説させていただいております。聖書の預言によると、人類は患難時代に突入する前に 10 個の前兆を経験するというのです。前回 **6 番目の前兆**について解説しました。**世界統一政府の出現**を経験するということです。今日は **7 番目の前兆**についてご紹介しましょう。

聖書預言によると、世界統一政府の国家は長続きしません。その内側から内部分裂・再分裂が始まって、ここから 10 の国が生まれるというのです。現在 208 の国があると言われていますが、それがやがて 1 つになります。その 1 つから 10 の王国が分かれ出ると聖書は預言してるんですね。

ダニエル書 7 章

23. 彼はこう言った。「第四の獣は地に起こる第四の国。これは、ほかのすべての国と異なり、全土を食い尽くし、これを踏みつけ、かみ砕く。」

第四の国は単数形だご紹介しましたね。1 つの国。1 つの国は何を食い尽くすのか？ **全土**。**全土**には全地球・全世界という意味があって単数形です。

1 つの国が 1 つの全世界を全部自分のものにしてしまう、という超強力な独裁体制/世界統一政府の出現について書いてあるんです。続いてこうあります。

24. 十本の角は、この国から立つ十人の王。

この国は世界統一国家。これから**十人の王**、すなわち政治的指導者・リーダーが立つ。

十人の王がそれぞれ 1 つの国を持つ。1 つの国が 10 の国に分かれる。

208 の国が 1 つになったかと思うと、次の段階では 10 か国に割れる。**全土を食い尽くし、これを踏みつけ、かみ砕く**ような強力な権限を持っている国家が、なぜ分裂してしまうんでしょう？

これを考えるのに、とつてもヒントとなる人類の歴史があります。それは中国の歴史です。

中国の歴史をざっくり申し上げると、戦乱と分裂の時代があり、その後に強力な中央集権国家が誕生します。この中央集権国家が倒れると、そこから 10~20 の小国がバラバラと分裂するんです。

その分裂時代を経ると、より強力な中央集権の国がまた誕生する。

この 3 千年間、中国の歴史はこのサイクルを 5 回繰り返しています。

では具体的に、なぜ 1 度成立した中央集権の国が小国に分裂することになるのでしょうか？

パターンがあるんです。まず、中央集権の官僚機構の下で、地方の反乱を収めるために様々な案が繰り出されるけど、最終的には結局 戦争です。戦争をあまりにもやり過ぎると財政難に陥る。

この財政難を乗り越えるために増税します。増税で 1 番しわ寄せを食らうのは農民です。

しかも増税の後、決まったように自然災害が来るんです。干ばつ・冷夏・大飢饉。そんな自然災害に起因する 恐るべき苦難が襲いかかる。もう失うものは何もない。

破れかぶれになって反乱を起こして、中央集権の国はやがて倒れてしまう。

昔 強力な中央集権の漢王朝がありました。これが倒れると三国志の時代に入りますね。曹操（そうそう）とか劉備玄德（りゅうび げんとく）です。最終的には魏晋（ぎしん）南北朝時代と言って、結局 漢王朝から 16 個の小国が分かれ出て来るんです。それから、唐王朝が軍人の反乱によって崩壊します。その後は五代十国（ごだいじっこく）時代で、唐の国から小さな国々がバラバラと出来上がります。

近代史では大清（だいしん）帝国/清朝ですよ。これが倒れると、中華民国の軍閥抗争時代に入ります。日本も支援していた袁世凱（えん せいがい）とか張作霖（ちょう さくりん）とか、歴史で習いましたね。そういう時代に突入していきました。大きな中央集権の国が倒れた後、10~20 未満の小さな国々に分裂して分かれ出る。これを 5 回繰り返しているのが中国の歴史です。

これは世界で中国だけに起こっているのではなく、どこの国も大体そうなんです。歴史は同じことが繰り返されるわけではないけれど、似たようなことが起こるんですね。

中国はでっかい国なので、天変地異が起こったとしても、中国全土でいちにのさん で一斉に飢饉になることはまずないですね。飢饉がやって来たとしても、食料があり余っている地方が必ずあるんです。そこから飢饉の地方に食料再分配、食料を回していくというのが中央集権のエリート集団・官僚たちがしていくべき仕事なんですが、彼らは絶対的権限と権力を持っています。“絶対的権力は絶対的に腐敗する” という名言がありますね。彼らは食料の価値が限りなく高くなっている時に、困っている所に回すだけではなく、一部を懐に入れたり転売したり、汚職に走るわけです。

このように、中央集権のスーパーエリート集団に対する不満・不公平感・自分たちはまともに扱われていないという地方の怒り、そういったものが吹き上がってくると、やがて中央の権限や、その力では抑えきれないような大分裂を起こすようになる、ということです。

世の終わりに登場する世界統一国家でも、同じことが起こるのではないのでしょうか。今世界に 74 億の人間がいますが、中央集権と言っても、誰がそこに就くんでしょう？ どんな政府になるんでしょう？ そこで特にリーダーシップを取る集団は、どんな人たちなんでしょう？

もしかしたら、人種的な優位・人種的偏見に基くことがまかり通ることも考えられないわけではない。その可能性は十分あるのではないかな、と思うんですね。そのような時、いつまでも中央集権の世界統一政府に従い続けることはない。そこから 10 の国に再分裂するのだと聖書は預言しています。

そして、10 の国々の特徴について聖書が預言している箇所があるんです。ダニエル書 2 章。それによると、人間の足の先っちょに 5 本・5 本の指がありますね。右足に 5 本・左足に 5 本。5+5=10 本の指がある。やがて終末時代に出て来る 10 の国家の時代を、その指になぞらえて預言しています。その指は一部は鉄製。しかし一部は粘土で出来ている。これはいったい何を意味するのか？

ダニエル書 2 章

42. その足の指が一部は鉄、一部は粘土であったように、その国は一部は強く、一部はもろいでしょう。
43. 鉄と粘土が混じり合っているのをあなたがご覧になったように、それらは子孫の間で互いに混じり合うでしょう。しかし鉄が粘土と混じり合わないように、それらが互いに団結することはありません。

この 10 の国は団結することがない。そして、この 10 か国は全部どんぐりの背比べではなく、強い国もあればもろい国もある。鉄のような力を持っている国もあれば、粘土のようにもろい国もある。そのように 10 の国々に分かれ出る。

この10か国がどこなのかは、まだその時代に入ってないので、今論じてもある意味で無益なことですが、大体的見当を付けることは出来ると私は考えています。というのは、そのうちの3か国については、**ダニエル書**にヒントが書いてあるからなんですね。しかし、このチャンネルでは確定的なことのみをお話したいと思いますので、それはまた別の機会に譲りたいと思います。

さて、世界がこの10か国に分かれ出ている時代・世界が10か国に分裂した状態で、患難時代に突入します。そしてこの体制は、7年間の患難時代の前半3年半の間続きます。後半になると、10か国のうちの3つが反キリストによって潰され滅びてしまい、世界は7か国になると語るのです。さあ次回、8番目のしるしについて詳しくお話したいと考えています。

よろしければ、チャンネル登録もお願いします。
またこのチャンネルで皆様とお会いするのを楽しみにしております。
それでは皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。